



## 平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年11月14日

上場会社名 株式会社 オーシャンシステム  
 コード番号 3096 URL <http://www.ocean-system.com>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 樋口 勝人  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役社長室長 (氏名) 古川原 英彦 TEL 0256-33-3987  
 四半期報告書提出予定日 平成29年11月14日 配当支払開始予定日 平成29年12月4日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年3月期第2四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	25,346	2.5	426	2.7	464	0.3	275	4.5
29年3月期第2四半期	24,739	3.2	438	17.0	466	14.7	288	14.7

(注) 包括利益 30年3月期第2四半期 294百万円 ( 3.5%) 29年3月期第2四半期 305百万円 ( 10.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	27.97	
29年3月期第2四半期	29.29	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第2四半期	14,849	6,411	43.2	651.37
29年3月期	14,444	6,176	42.8	627.41

(参考) 自己資本 30年3月期第2四半期 6,411百万円 29年3月期 6,176百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		6.00		6.00	12.00
30年3月期		6.00			
30年3月期(予想)				6.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	52,500	5.1	1,040	13.6	1,090	9.8	600	23.1	60.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	10,833,000 株	29年3月期	10,833,000 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	989,121 株	29年3月期	989,121 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	9,843,879 株	29年3月期2Q	9,843,879 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益が改善するなか、雇用情勢も緩やかな改善傾向が続く個人消費にも回復基調が見られましたが、北朝鮮情勢など海外における政治経済動向は依然として先行き不透明な状況が続いております。

食品業界におきましても、税金や社会保険料などの増加に伴う可処分所得の伸び悩みと若年層を中心に消費性向の低下が持続し、同業他社や他業態との競合により経営環境は依然として厳しい状況が続いております。

このような状況の下、当社グループは「美味しさ」と「低価格」で高い競争力を実現するため、「安全・安心」な食材の提供はもとより、スケールメリットを活かした大量仕入れや効果的な配送によるローコストオペレーションに取り組み、企業価値の向上に努めてまいりました。

一方、利益面におきましては、子会社買収に関連する一時的な費用を計上した影響もあり、販売費及び一般管理費は前年同期に比べ、3.2%増加いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は253億46百万円（前年同期比2.5%増）、営業利益は4億26百万円（前年同期比2.7%減）、経常利益は4億64百万円（前年同期比0.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億75百万円（前年同期比4.5%減）となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

#### (スーパーマーケット事業)

スーパーマーケット事業につきましては、4月に開始したドライグロスアリー商品の一括納品体制の構築により店舗業務の作業効率化が図れ、同部門の売上高も前年に比べ増加しました。また、精肉、青果及びデイリー（日配）部門の売上も比較的好調だったことにより、既存店の売上高については前年同期に比べ、0.3%増加いたしました。

チャレンジャー北長岡店におきましては、競合店対策として販促活動を見直し、9月に5日間休業して店内改装を行い売場の刷新を図りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は112億66百万円（前年同期比0.3%増）、セグメント利益は2億51百万円（前年同期比4.6%増）となりました。

#### (業務スーパー事業)

業務スーパー事業につきましては、前期に引き続き、月ごとにMD戦略を立て、業務スーパーのオリジナル商品を中心に店内POPや試食など販売促進を各店舗で行う「陳列コンテスト」の実施により集客力の向上に努めてまいりました。

また、業績不振店を中心に飲食店舗への手配りチラシや折り込みチラシなど新規顧客の開拓を図ったことにより、既存店の売上高については前年同期に比べ、3.9%増加いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は76億41百万円（前年同期比7.4%増）、セグメント利益は2億2百万円（前年同期比24.4%増）となりました。

#### (弁当給食事業)

事業所向け宅配弁当につきましては、北海道地区において、同業他社から顧客の受け入れを行ったことにより、同地区における平日の平均販売食数は前年同期末に比べ、31.5%増加いたしました。

また、Webサイトからの受注が可能となるシステムを一部店舗で開始したことと、新潟県内において、お客様がコンビニエンスストアで払込める決済サービスを導入したことにより、受注業務及び集金業務の作業効率が向上いたしました。

惣菜等の受託製造を行っている千葉工場につきましては、前期より始めた事業所向け宅配弁当「フレッシュランチ39」の製造及び販売につきましても食数は順調に増加し、惣菜の受注量や「こしひかり弁当」（首都圏オフィス向け店頭販売弁当）部門の売上高も前年を上回りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は37億49百万円（前年同期比2.6%増）、セグメント利益は1億88百万円（前年同期比5.5%増）となりました。

（食材宅配事業）

食材宅配事業につきましては、当社のオリジナルによる単品の企画販売や、チャレンジャーの取扱い商品の宅配を開始したことなどにより、自社企画における商品の売上高は前年同期に比べ増加いたしました。しかしながら、主力商品である「すまいるごはん」の食材セット販売につきましては、新規顧客獲得に向けキャンペーンなどを行ったものの販売食数は前年を割り込みました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は22億43百万円（前年同期比2.3%減）、セグメント利益は1億4百万円（前年同期比5.7%減）となりました。

（旅館、その他事業）

旅館「海風亭 寺泊 日本海」につきましては、一般のお客様によるレストランの利用客は減少しましたが、旅行会社が斡旋する宿泊やバスツアーによる昼食利用は増加いたしました。

定食屋「米どころん」につきましては、健康志向の食材を使用した新メニューや、一部店舗において独自メニューによる看板商品の開発を行っており、また、テイクアウトや一部の店舗では配達による弁当販売にも注力いたしました。経費面につきましては、一部店舗において改善は見られたものの、依然として人件費の削減と新店で取り入れたビュッフェ形式の原価管理が課題となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間のセグメント売上高は4億46百万円（前年同期比2.7%増）、セグメント損失は57百万円（前年同期はセグメント損失67百万円）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ4億4百万円増加し、148億49百万円となりました。これは主に、減価償却などにより有形固定資産が2億17百万円減少した一方、短期借入金増加により現金及び預金が6億34百万円増加したことによるものです。負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億69百万円増加し、84億37百万円となりました。これは主に、役員退職慰労引当金が3億13百万円、長期借入金（1年内含む）が3億1百万円減少した一方、短期借入金が11億50百万円増加したことによるものです。純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億35百万円増加し、64億11百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益2億75百万円及び剰余金の配当59百万円によるものです。この結果、自己資本比率は0.4ポイント上昇し、43.2%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ6億25百万円増加し、18億52百万円となりました。この主な要因につきましては、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果取得した資金は1億42百万円（前年同期は4億11百万円の取得）となりました。

主な増加要因は、税金等調整前四半期純利益4億53百万円及び減価償却費2億69百万円であり、主な減少要因は、役員退職慰労引当金の減少額3億13百万円及び法人税等の支払額2億11百万円によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果支出した資金は2億62百万円（前年同期は2億75百万円の支出）となりました。

主な減少要因は有形固定資産の取得による支出1億89百万円によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果取得した資金は7億44百万円（前年同期は3億38百万円の支出）となりました。

主な増加要因は、短期借入金による収入11億50百万円であり、主な減少要因は、長期借入金の返済による支出3億1百万円によるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期通期の連結業績予想につきましては、前回発表（平成29年5月12日）の業績予想に概ね沿う形で推移しており、今後も業績に大きな影響を与える可能性のある要因がないと考えられるため、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,369,655	2,004,389
売掛金	971,533	1,007,433
商品	1,398,784	1,367,116
原材料及び貯蔵品	132,888	120,504
その他	522,299	593,998
貸倒引当金	△2,360	△2,410
流動資産合計	4,392,799	5,091,031
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,927,703	3,827,991
土地	2,977,760	2,950,268
その他（純額）	602,723	512,295
有形固定資産合計	7,508,187	7,290,555
無形固定資産		
のれん	5,652	4,533
その他	257,373	261,390
無形固定資産合計	263,025	265,923
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	114,233	114,819
その他	2,183,962	2,103,263
貸倒引当金	△17,507	△15,983
投資その他の資産合計	2,280,688	2,202,099
固定資産合計	10,051,902	9,758,578
資産合計	14,444,702	14,849,609
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2,775,424	2,642,275
1年内償還予定の社債	800,000	800,000
短期借入金	586,727	1,626,721
未払法人税等	262,694	107,358
賞与引当金	218,989	228,398
その他	1,543,109	1,494,193
流動負債合計	6,186,945	6,898,946
固定負債		
長期借入金	430,174	238,910
リース債務	186,430	157,802
退職給付に係る負債	16,616	14,775
役員退職慰労引当金	440,800	127,400
資産除去債務	548,660	545,300
その他	458,937	454,512
固定負債合計	2,081,619	1,538,700
負債合計	8,268,564	8,437,647

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	801,710	801,710
資本剰余金	366,781	366,781
利益剰余金	5,628,563	5,844,879
自己株式	△751,653	△751,653
株主資本合計	6,045,402	6,261,718
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	117,204	140,404
退職給付に係る調整累計額	13,530	9,839
その他の包括利益累計額合計	130,735	150,244
純資産合計	6,176,137	6,411,962
負債純資産合計	14,444,702	14,849,609

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自平成28年4月1日 至平成28年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自平成29年4月1日 至平成29年9月30日）
売上高	24,739,454	25,346,801
売上原価	18,569,231	19,005,625
売上総利益	6,170,222	6,341,175
販売費及び一般管理費	5,732,138	5,915,124
営業利益	438,084	426,051
営業外収益		
受取利息	30	13
受取配当金	4,176	4,172
その他	41,510	45,776
営業外収益合計	45,717	49,962
営業外費用		
支払利息	11,537	7,778
その他	6,010	3,555
営業外費用合計	17,547	11,334
経常利益	466,254	464,679
特別利益		
受取保険金	17,100	—
特別利益合計	17,100	—
特別損失		
固定資産売却損	—	8,920
減損損失	1,213	—
災害による損失	15,604	—
その他	844	2,371
特別損失合計	17,662	11,292
税金等調整前四半期純利益	465,692	453,387
法人税、住民税及び事業税	183,802	68,140
法人税等調整額	△6,434	109,867
法人税等合計	177,368	178,008
四半期純利益	288,324	275,379
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	288,324	275,379



（四半期連結包括利益計算書）

（第2四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）
四半期純利益	288,324	275,379
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,329	23,199
退職給付に係る調整額	86	△3,690
その他の包括利益合計	17,415	19,508
四半期包括利益	305,739	294,887
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	305,739	294,887
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

（3）四半期連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前第2四半期連結累計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	465,692	453,387
減価償却費	288,034	269,303
減損損失	1,213	—
災害損失	15,604	—
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	26,326	△313,400
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△2,260	△1,474
賞与引当金の増減額（△は減少）	4,177	9,408
退職給付に係る資産の増減額（△は増加）	△882	△585
退職給付に係る負債の増減額（△は減少）	333	△1,840
受取利息及び受取配当金	△4,206	△4,186
支払利息	11,537	7,778
受取保険金	△17,100	—
有形固定資産売却損益（△は益）	—	8,920
売上債権の増減額（△は増加）	55,891	△31,147
たな卸資産の増減額（△は増加）	△36,997	44,052
未収入金の増減額（△は増加）	3,630	5,722
その他の流動資産の増減額（△は増加）	△54,262	△69,855
仕入債務の増減額（△は減少）	△183,388	△133,149
未払消費税等の増減額（△は減少）	△7,624	△6,854
未払費用の増減額（△は減少）	18,598	73,209
預り保証金の増減額（△は減少）	△6,007	1,492
その他の流動負債の増減額（△は減少）	23,939	35,605
その他	24,687	10,992
小計	626,936	357,378
利息及び配当金の受取額	4,207	4,186
利息の支払額	△10,224	△7,700
法人税等の支払額	△200,419	△211,081
法人税等の還付額	1,513	55
災害損失の支払額	△10,932	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	411,079	142,836
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△19,012	△19,004
定期預金の払戻による収入	10,000	10,000
有形固定資産の取得による支出	△231,133	△189,250
無形固定資産の取得による支出	△14,251	△33,619
敷金及び保証金の差入による支出	△20,977	△31,934
敷金及び保証金の回収による収入	68	2,520
長期前払費用の取得による支出	△200	△754
投資活動によるキャッシュ・フロー	△275,507	△262,044
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（△は減少）	200,000	1,150,000
リース債務の返済による支出	△53,427	△44,892
長期借入金の返済による支出	△421,378	△301,270
配当金の支払額	△63,794	△58,900
財務活動によるキャッシュ・フロー	△338,599	744,936
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△203,027	625,729
現金及び現金同等物の期首残高	1,228,850	1,227,232
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,025,823	1,852,962

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	11,236,029	7,116,983	3,655,486	2,296,014	434,940	24,739,454	—	24,739,454
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1,394	56	73,043	112	2,373	76,980	△76,980	—
計	11,237,423	7,117,039	3,728,529	2,296,126	437,313	24,816,434	△76,980	24,739,454
セグメント利益 又は損失（△）	240,809	162,844	178,313	111,154	△67,432	625,689	△187,605	438,084

（注） 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△187,605千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△186,919千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

固定資産に係る重要な減損損失はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間（自平成29年4月1日 至 平成29年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	スーパー マーケット 事業	業務 スーパー 事業	弁当給食 事業	食材宅配 事業	旅館、 その他事業	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	11,266,362	7,641,628	3,749,106	2,243,171	446,532	25,346,801	—	25,346,801
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	794	99	76,152	39	2,790	79,877	△79,877	—
計	11,267,156	7,641,728	3,825,259	2,243,211	449,322	25,426,679	△79,877	25,346,801
セグメント利益 又は損失（△）	251,862	202,577	188,094	104,870	△57,615	689,789	△263,738	426,051

(注) 1 セグメント利益又は損失（△）の調整額△263,738千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△264,059千円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない全社共通費用であり、その主なものは管理部門に係る販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。